

# 愛珠

## 思い出するままだに(十)



中村道子

### 一、終戦直後の幼稚園

太平洋戦時下、長い間、いろいろな形で、緊張していた神経は、八月十五日以来、放心したようになって、私の身体は非常に疲れていた。しかし園舎は昔の姿を残して、端然と立っている、美しい姿であった。

園舎の健在であった愛珠幼稚園は、東区内にあった幼稚園、九施設の会合や、今橋と高麗橋筋の両町の連合常会も、所在がわかり易くて気がおけないとて、自然会場に選ばれるのであった。多くの人々がではいりしているうちに、私も次第に元気をとりもどし、心身共に軽快になって全身の疲労は消えていったから、機会

を見つけては、内藤後援会長宅や、市教育局へ行って、戦時中のお世話を謝し、今後の援助を依頼したり、また休むひまもなく、すぐ豊中の山口邸に赴いて、戦時中における、文献の疎開の恩顧を深く謝し、あわせて今後の幼稚園の復興に関して、種々援助してもらうことを依頼すると共に、疎開物の諸具全部は、十一月中旬の引上げ予定まで、保管してもらうことを依頼して帰って来たりした。またこの間に、戦時中退職したり、転勤した人たちの手続きも、それぞれ済ませてしまったのである。

その後、疎開先から幼児もぼつぼつ復帰し、園内に子どもの姿が、だんだん見えて来て嬉しく、声を出して笑うこともあって、楽しかった。復帰した幼児の中の、永田・片山・加納の三名は、午前も午後も二回ずつ来遊して、楽しんで帰宅していたが、ある

日、その幼児の親たちが隣組を代表して、幼稚園の再開を希望して来た。また保護者会の幹事を通じて、入園を依頼して来る人もあつて、希望者が漸次増加して来るので、教育局に相談すると、事情の許される箇所は、希望者全部を收容して、十月一日から再開することに決定してもらつた。そのため、依頼に来た人たちにこのことを知らせ、幼稚園もその心準備をして待った。

## 二、保育の再開

愈々十月一日を迎えて開園すると、前年度迎えた二年保育児六名や、豊中の山口の親戚だといつて来た尾川忠康と、この他女児二名で、数は少ないが私は嬉しかった。子どもらもみんな嬉しそうににこにこ笑っている。子どもについて来た、後援会幹事の片山さんは、「幼稚園で防空壕にはいる稽古を、ようしてもらいましたよつて、何べんもはいりましたけど、一回も泣けませんでした」と子どもの顔を見ながら「なァ！泣けへんかったなァ！」そして私を見て「えらいもんですわ、幼稚園のおかげでした。この人を、一番案じていましたけどなァ！」「そうでしたか！片山君は強かったわなァ！」私が幼児の顔を見ながら笑うと、うんと大きくうなづいたので「幼稚園のおかげやなァ！と、みんな

でいうてましてん」十時になったとき、思ったより幼児が少ないから、応接室に机を五脚入れ、幼児にも手伝ってもらつて、椅子をそれに合わせて、みんなが席に着いた。

私はその一つの椅子に腰をかけて、子どもらを見てにっこり笑いながら、「みなさんご機嫌よう！ たっしやで幼稚園へ帰つて来て下さつてよろしいでしたなァ！ みんなの顔を見ると、園長先生は嬉しくて、ひとりでに笑えて来ますわ！あの戦争中には、園長先生一人で、幼稚園のお留守番をしていて、みんなはどうしているかしらんと、思つていましたで。誰も病気をしませんでしたか」「あんな、よし子ちゃんが、おなかいたをしりましたか」「そう！よし子ちゃんかわいそうに、じき直りはりましたか」「先生！ブーが来たよつてん、みんなといっしょに防空壕へはいりました」「皆は泣きましたか」「いいや泣けへんかった」「そう！ブーが来た位で泣いたら弱い」「うち、おかあちゃんにかじりついてました」「そう！みんな強かつたでしたなァ」

出席を調べ、「明日から、お稽古もしますから、お友だちに逢いましたら、このことを知らせて上げてちょうだいや。お道具は幼稚園から貸して上げますから、まだいりません。——それから—— お家に近いお友だちは、さそうて来て上げてちょうだいや」みんなで、さよならの歌を思い出しながら、歌つてわかれた

が、今日は御堂筋を越して来た幼児は、二人しかいなかった。戦前のことを思うと、大変な違いである。

翌二日には、相変わらず元気に走って来た子や友だちと肩を組んで来る子もいて、みんな無邪気に笑っている。十人たらずの人数であるから、今日も応接室にはいつて、みんなを見て笑うと、子ども自身も互に気分が和んで、嬉しそうであった。朝の歌を歌うこととしたが、初めから終りまで完全に歌えなかった。節も忘れて飛び飛びに歌った。「暫く幼稚園が、お休みしている間に、みんな忘れてしまいましたなァ！」私は身振りをしながら金太郎の話をした。みんなおもしろそうに、いっしょうけんめいに聞入って、「強いなァ！」と感心した。

金太郎に負けぬ子になってちょうだいや。それから元気に自由遊戯に移り、遊びが終わった頃、一同応接室に集合して、みんなの揃うのを待つ間、私は金太郎の歌を口づさみ、次いで、ちゅうりつぶやままごと……このほり等、覚えている方は、いっしょに歌いましょうと歌ったが、どの唱歌も、私の声について覚えているところは大きく歌い、忘れているところでは声は切れた。子どもたちは大方忘れてしまつて、かつて完全に歌えた歌も、まともには歌えなかった。

やっと取り戻した笑いを、損ねてはと思ひ、「幼稚園がお休み

だった間に、みんな忘れてしまいましたなァ。今度は先生が歌つて、みなさんに聞いてもらいましょう」といつて、西條八十の、

歌を忘れたカナリヤを、歌った。みんなの顔を見ながら笑顔で歌っていたが、疎開をしたり壕に逃げ込んだり、そして恐怖の顔をしながら、異状な叫び声を、何度も聞いていっているうちに、柔らかな心は荒げて、歌の心は散りじりになり、完全に歌えなくなったのか、と思うと涙がにじみ、それでも笑顔で続いているうちに、泣けて来て、戦争の恐怖は、歌う楽しさを、喜びを、滅茶滅茶に、斬り苛んだかと思うと、涙は止めどなく流れて来たが、それでも子どもの顔を見ながら、笑顔をして、涙をふきふき歌った。

四、五日後、再開された幼稚園へ、取材のため来られた、時事新聞の山田婦人記者に、このことを話すと、私は知らなかったが、この翌日のラジオ放送で、NHKがこのことを放送したそうである。——これを聞いた保護者が、三人ばかり私に知らせて下さったが、今思い出しても涙がにじむ。

### 三、職員の新次増加と園舎の貸与

終戦にて、家屋疎開が中止され、園舎が完全に残ったことは、幼稚園にとって真に幸いであったが、愛日小学校に預けた窓や、

遊戯室周囲の硝子障子の引上げには、非常に困難を覚えた。動員の学生たちは、今はもう来てもらえないし、一方幼児の出席は、雨夜の星のようであっても、少しずつ増加するし、悲喜交々であった。

手伝人がないために、親戚に頼んで、大学へ行っている息子と、その友だちに頼んで、やっと埋めてもらい、また以前高島屋が、買上げた疎開者の荷物を、なかなか引取りに来てくれなかったのが、この機会に引取ってもらえて、遊戯室らしく纏って広くなり、幼児たちはたいそう喜んで走り廻った。また学童疎開から帰って来た一年生も、たくさん来るようになって、幼稚園は賑やかになった。

十一月三日の明治節には、久しぶりに幼児と顔を合わせて、みんなで君が代を斉唱したので、真実に嬉しく思った。この日平野町の西村卯三郎さんから、仁丹入りの小箱三十個の寄贈を受け、幼児一同に与え、お土産ができたことは嬉しかった。

永らく病欠していた主席保母も出勤し、また、罹災を免れた幼稚園へ、罹災幼稚園の手空きの保母が配属されたから、幼稚園は賑やかに手が揃って好都合になった。おかげでみんなの顔が揃った時、広間から、ヨイショ、ヨイショとピアノやオルガンを出して、元の位置に納めたが、これをここへ運び込む時と、今日のみ

んなの意気込みとは大変な違いで、みんな明かるかった。また校務員も、元堀江幼稚園にいた顔馴染の人であるし、殊にこの秋田さんは、帳簿をとじることや、謄写板を刷ることが上手であったから、いっそう嬉しかった。

人手は揃って来たし、また園舎の残存が、いろいろな形で、おぜいの人々の役に立つことを今思うと、戦時中苦勞した甲斐があったと嬉しく思った。それは種々な会が、会場に貸してほしいと頼んで来た。これ等の人々の荒んだ気持に、潤いが得られることと思ひ、誰にも貸して上げたいと思つたが、やはり不用心になつてはと案じ、会の内容・人柄・使用の目的を尋ねて、気の毒だつたが断わるものもあつた。

そして、建築物管理の上から会の終了までは、いつも私がいることとして、校務員一人には、決して任せなかつた。——かわいそうでもあるし、万一のことがあつてはと案じたからだ——この中で、私が一番楽しく思つたものは、ヘンデル合唱団で、毎週土曜日の六時半から、合唱の練習が始まって、八時半頃まで続いたが、私は職員室で雑事を整理しながら一人いて、時には歌をうたうこともあつた。

楽しみに荒んでいた気持も潤い、少しも淋しいとは思わなかつた。殊に終会の歌はよく覚えて、これを聴くと、いっしょに声を

出して歌うこともあった。曲も歌とよく合って、気分を静かに落着けてくれる。——星かげさやかに、静かにふけぬ、集いの喜び、歌うは楽し、名残りはつきねど、集いははてぬ、今日の一日の幸、静かに思う——その時には、私自身も同じ気持ちで、幸せであった。

昼間は、豊中の疎開先から帰ってきた、古文獻や、種々な掛図類、その他園具類を、整理分類するために、倉庫の中で時間の許す限り働き、園務の整理処理は、夜間職員室の燈下でなすこととしていたからである。

#### 四、学区内における進駐軍の機関所在

北浜五丁目にある住友本社五階全部には、司令部が置かれ、この西側を流れている横堀川を隔てて、南へ二丁程行った所に見える、石原産業の建物全部は接收されて、教育関係の事務所にされていた。また、司令部から愛珠園の後を通り、東方の北浜一丁目に恤兵部を置いていたから、幼稚園の周囲を將兵がよく往来するので、誰かの邸宅と思ひ違えてはいけないと思ひ、四寸幅の板に、アイスキングダーゲートンと英語で書いて、正門脇の潜門の上に打ち付けて、誰にでもよく分るようにした。

進駐軍司令部に占拠せられた、住友五階の事務所全部が、愛日小学校の二階を使用することになったから、愛日に預けた愛珠の疎開物の残り全部を、引取らねばならぬことになり、その上期限つきだったから非常に困難であった。手伝いの人手はなし、一方引取らねばならぬから、職員全部に頼んで片付けてもらうこととし早くて、実に気の毒に思った。しかし誰も不足一ついわず、全部きれいに片付けて下さってありがたく思った。

#### 五、戦後教育関係事業の変化

幼稚園再開以来、時がたつに従って、教育の規定や、実状が少しずつ変化して来た。中でも十一月二十八日には、愛日小学校で教員組合が結成されるというので、私は意味は分らなかつたが、愛珠園は、愛日校と同学区であり距離も近いから、とにかく出席することにした。

愛日校への途中、私は歩きながら組合という意味を考えていた。——組合は組合員の共同目的のために、一体となって資本家側と話し合い、その目的が貫徹しなかつた時には、切札として労働者側がストをして威勢を示し、結局、対者にある程度の了解をさせて、自己の目的を達しようとするものであろう。しかしこれ

が、組合員各自が同じ仕事に従事し、他人と対関係のない場合は、完全に行動はとれようが、教育の場合では、教育する者とせられる者とが相対で、初めて仕事が出来るのであって、単独ではできない。教師がストをすれば、生徒は非常に迷惑であつて、教師に協力するという生徒があるかも知れないが、迷惑を感じ憤りさえ持つ者もあるであろう。敢えて時限ストを行ない、この時間を何かと振り替えるとするれば、それはこじついで純粹なものではない。個人労力者と同じように見なすことは不可能である。

相互関係の仕事を持つ者が、どうして単独の労働者と同一に見ることが出来るものか、スト、ストといつても、教職者と労働者とは同一形式行動はとれない。教職に組合が要るのは、どんな場合だろうか、これは研究せねばならぬ。流行に乗ったり、唆かされたり、迎合的であつてはならない。ちょうど愛日校の前に来たから、とに角講堂へはいつて行つた。

今日の結果、ここから四丁程東へ、堺筋の電車道路を越してすぐ、左側に立派な校舎を持つ集英小学校に、組合事務所を置くことになつた。そして分掌する事務はよく分らなかつたが、常駐の事務者は二、三人で、他は各校園から選挙された人が十人位で、毎日放課後から事務処理に行くらしい。教育委員や視学も、組合から選出することもできるさうであつて、私は静かに見ているこ

ととした。

## 六、二十年度の三学期

悪夢だつた昭和二十年も、去ろうとする十二月十五日に、弁護士白川朋吉先生が会長である、愛日教育財団の錦会計幹事から、幼稚園へ教育援助補助費として、金壹百円也を持参せられたから、園としては大層助かつたので嬉しく思つた。この日から幾日もたないうちに、二十一年の元旦を迎えたのである。

終戦後最初の新年とて、三十人未滿の幼児と五人の職員で、來賓として山口夫人一人を迎えて挙行したが、それでも感慨無量であつた。正月も半ば過ぎたある日、市の助役や教育局長、それに各課長と視学数人が來園せられたから、何ごとかと驚いていたが、保育室で、コの字型に置かれた卓子の前の椅子に、それぞれかけておられたから、これから会議だと思つてみると、種々な人が次々に行つて話しておられるから、一人の顔見知りの方に尋ねると、十年前私が美術館に行った時のことを思い出して、にっこり笑つて只うなづいた。今回の罹災で亡くなつた校長もあり欠員もあり、また退職する人々の補充も要るので、その選定をせられたものらしい。現に私が西六園にいた時、教頭だつた桜井先生

も高台たかだい小学校長になられたが、塚の空襲の時自宅が罹災したので、先生もその時に亡くなられたのであった。元気であった西六のおばさんも、幼稚園の壕の中へ、長男の勲章を取りにはいったが、火熱のため出られなくなって、そのまま亡くなってしまった。

例年三月の幼稚園研究発表会は、戦後会場の関係から、愛珠の畳の広間で行なわれたが、いずれも戦後の保育にふさわしい課題が、ほとんど取り上げられていた。

幼児に楽しい思い出を残す上巳の節句は、今年度はその有無を危ぶまれたが、三月十八日に催すことができて良かった。殊に後援会の幹事であった磯部氏から、全園児にと可愛らしい雛ずしを、寄贈していただいたから、一層深い思い出を残すことができ、磯部氏夫妻や、大きく成長せられている子たちに、感謝の挨拶をした。そしてこの二日の後、同じように危ぶまれていた、六十六回の保育修了式を、よく片付いて広くなった遊戯室で挙げることでできて嬉しかった。この日は男児十三人女児六人計十九人で、開園以来初めての少人数であったが、創立以来一回も欠けることなく、修了式ができたことは、嬉しくて私は天に謝した。

なお、一昨年船場高等女学校付属幼稚園が、創始せられた時、ピアノ堪能の故をもって、愛珠幼稚園から抜擢せられて赴任した森保母は、戦後同園が廃止されることになったから、三月三十一

日付の辞令で、再び愛珠へ帰って来てもらうことになり、私は子どもが帰って来たように思えて嬉しかった。森保母は船場幼稚園が罹災した時、一部鉄筋の個所があったので、それを利用して適当な処置をとったから、備品も全部完全に残ったため、園長は非常に喜んでおられ、これを聞かされた時、私は自分のことのように嬉しく思ったのである。

三学期ともなれば、例年は新入園児の受入れ準備を種々始めていたが、今年度は愛珠の学区に変わりはないが、罹災園の学区の状態が分らないから、希望者数の見当もつかないので、とに角希望してくる者はみんな入園を許可することとした。愛珠は二百五十人位は収容できると備品から推して、想像していた。

そのうちぼつぼつ申込んで来たから、願書を調査して住所を区別すると、東区内での汎愛・久宝・船場・浪華・集英等六施設の他、西横堀川を越えて西船場と広教、それに大川を隔てて北区の菅南と西天満、そして土佐堀川を渡って中ノ島校の側からも来ている。また私が場所も知らない豊崎・浦江・福島方面からも、みんな電車やバスや地下鉄等の最寄の駅から、乗物を使って入園を希望して来ている。私は願書を見て、みんな入れることに決めたが、しかし遠方からくる人には、必ず責任ある者に、義務として、送迎させることを約束したのである。けれども誰も不服はな

く、喜んでそれを承諾した。また、愛珠に近い区内の園からは、入園当日には、保姆が幼児と保護者を伴って行くと、前もって知らせて来たから当方も入園者として取扱った。

思えば收容児の通園区域は、想像もつかぬ広漠な区域となり、したがって幼稚園までの距離も相当長いから、愛珠を希望してもらったことを喜しく思うと共に、毎日幼児も保護者もかなりな骨折りだど気の毒に思った。が、心身共にこの努力に堪え得られる者は、頼もしく、恵まれた者と感じ、これらの子どもらを祝福せずにはおられなかった。

四月十一日午前十時から、終戦後最初の意義深い入園式を挙行したが、前年度からの残留児三人と、本年度の新入児とを合わせて、計二十八名を得、この中男児十八名と女児は十名であった。子どもらは入園ができたことを喜び、みんな元気でビチビチしている。幼児数は実に僅少であったが、明日からの保育を思うと嬉しかった。

## 七、遊園の清掃

「先生！ 焼跡を整理に来てはる日雇の人らが、十四、五人一組で昼食をここでさせてもらえませんかやろかと、尋ねに来はりま

したので、園長先生に尋ねてきますというて来ましてんけど」といつている時、もうその後代表の人がきて、「市役所で幼稚園へ行つて頼んでみいと、いいはったさかいましたか、焼跡には影になる所がおませんし、道具を置かしてもらう場もなし、仕事か片付くまで、どこでもよろしよって、暫くお貸し願われませんか、昼もお茶は自分らが沸しますよって、食時の間だけ貸してもらえたらとお願いに来ましてんけど、私の箱の者だけですね、どないでっしゃるか」と尋ねられた。

「ああそれはご苦労さんです。焼跡には大きい家もいなし、ほんまに困りますなァ！ 道具というどんな物ですの？」「ガラや芥を運ぶこと車で、それにシャベルや鋤みたいな、われわれに用事のある物ばっかりで、それでも無いようになったら難儀でつさかい、晩だけ預かってほしおますねん」「ああそうですか、ご苦労さんですなァ。そんなら、おじさんやこの原田さんに尋ねて、置場を聞いて貸して貰つてちょうだい。お茶は子たちのを原田さんが作りはるから、ついでに作つて上げたらよいわ」

「いえいえそれはこつちで作ります」「さっき私らの箱といつてなされたが、箱というたら何のことですの」「箱というたら組のことをいいますねん。みんな一組のことを箱、箱といひますよつて、じき箱といひますねん」「そうですか、何かと思ひました



が、仕事は長い間かかりますか」「いいえ二週間程で済みます」「そんならなにとぞ使うてちょうだい。長い間かと思うてそれならまた場所を考えんならんかと思いましたが」「えらいすみません。ほんまに助かりました」「いいえご苦労さんでした」

その後市街清掃の人たちも毎日来ているらしく、夕影には門内の泰山木の下に車が置かれ、シャベル等その他の道具が、乗っている時もあり、以前幼児の昇降に使っていた室内の隅に、寄せ掛けて集めていることもあった。不整理な扱いは少しもしていなかったもので、結構だと思っていた。ある日「先生大きにすみませんでした。おかげで私たちの仕事は全部済みましたが、長い間お世話になりましたよって、幼稚園の用事で、われわれでできる仕事がありましたら、何でもさせて貰います。みんなも喜んでそうしていますねん。大きにすみませんでした」

「いいえ！ そんなこといいはらんでもよろしいわ！ 広い場があつて、使うてもうただけですが、そんな心配せんでよろしいで、みんなにそういうて上げてちょうだい」「先生、遠慮しはらんでよろしが、仕事をさせてもらう所をいうとくなくは、われわれの用は今日でみんな済みましたさかい」「親切にありがとう」「先生、運動場はこんなりにしとかはりますか」「いいえ、この木煉瓦を全部取って、その土と同じ高さに平そうと思うてます

けど」「そんなら明日来て、そないしますわ」「そんなことをしてもうたら、お気の毒ですが」

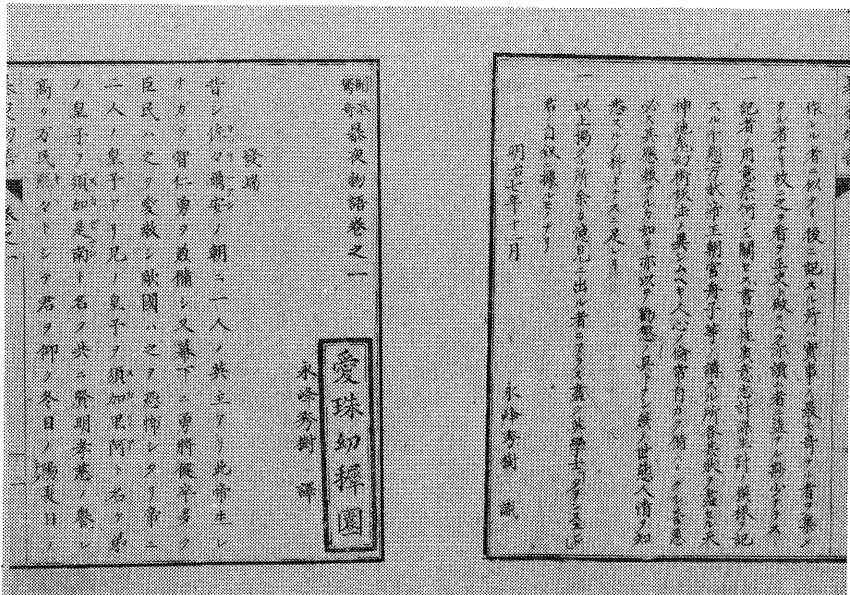
翌朝八時にはもうみんな来て仕事のしたくをしているから、私は驚いて、「お早ようさん！ みんな煉瓦をどかしてくれはりますの」と尋ねると、「へえ、今日しますわ」「まあすみませんなア、親切にありがとう」と挨拶している時、組長さんの顔が見えたので、「お言葉に甘えてほんとにすみません、ありがとうさんです」それで私は組長さんに、木煉瓦は全部納屋の中に積み込み、運動場の体裁の予定をいって仕事を頼んだ。

戦時中二十余坪の煉瓦を取りこわした時と違い、今日の人たちの仕事は早く、男の人がコンクリートまで取り除き、女の人が煉瓦を畚に入れて二人でかついで納屋に積み込み、その後から手空きの人が土を平すから、午後の三時頃には大方でき上がりかけたので、私は驚いて小使さんたちと相談して、お礼としては少ないが心持だけですといつて、一人に二個あてピースを渡してもらうことを組長さんに頼んだ。

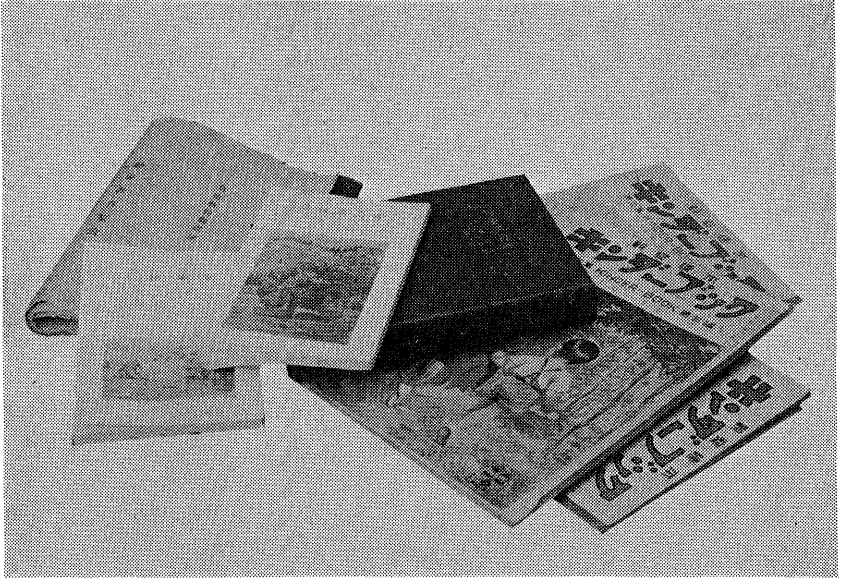
「運動場が散髪の虎刈になつて見苦しかったが、おかげできれいになつて嬉しいですわ、ありがとうございました」とみんなで礼をいって、撰養室の庭の美しさと、広い遊園の整備で、楽しい運動場を持つことができ、私はほんとうに感謝した。



談話の参考用・イソップ物語序



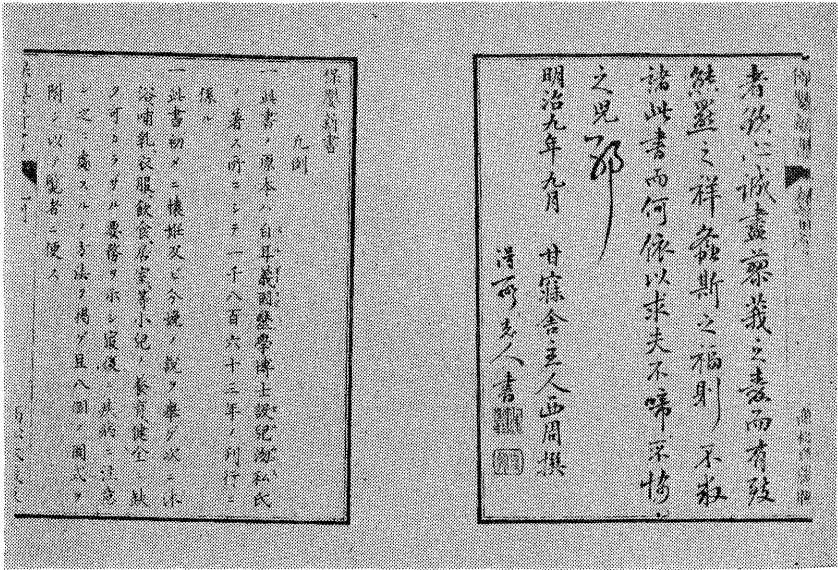
談話の参考用・アラビアンナイト物語



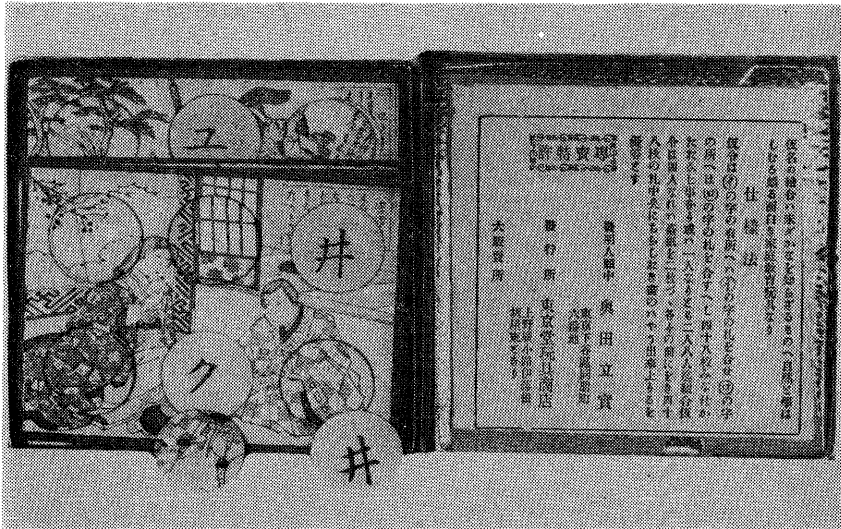
保姆の研究参考資料・倉橋先生の著書とキンダーブック



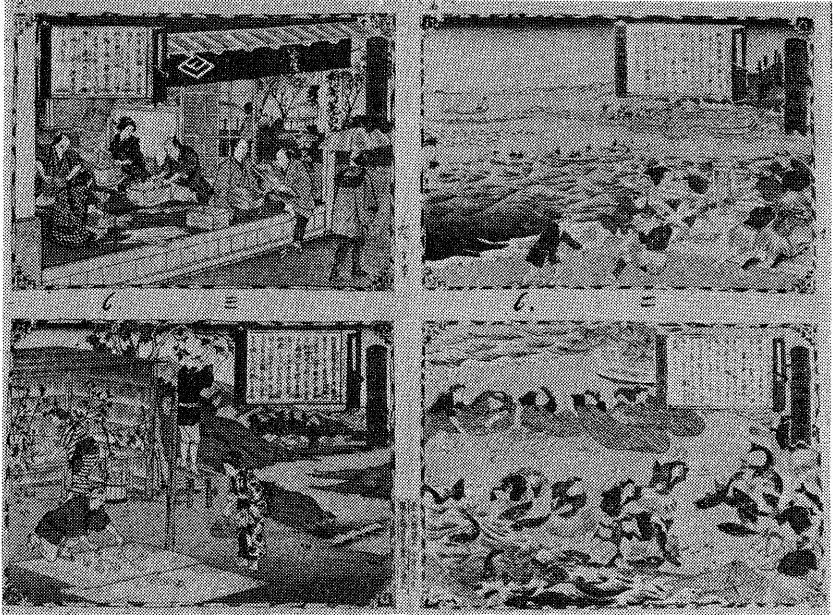
保姆の研究参考資料・幼児の教育



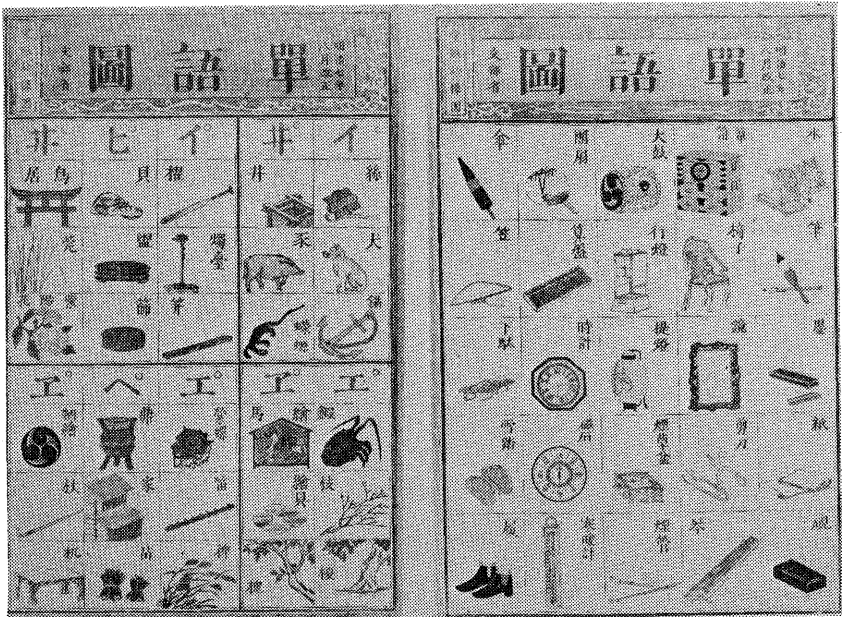
衛生・育児 保嬰新書



玩具・絵合 箱の中に絵合用の絵が他にはいっている



觀察 大日本物産図会 綱引等四景



觀察 單語圖